



2023年5月期（31期）

# 第2四半期 決算説明会

2023年 1月12日

株式会社インターアクション

証券コード：7725

※本決算説明会の内容につきまして、ご参加される方による  
録音、録画はご遠慮いただきますようお願い申し上げます。

# Agenda

---

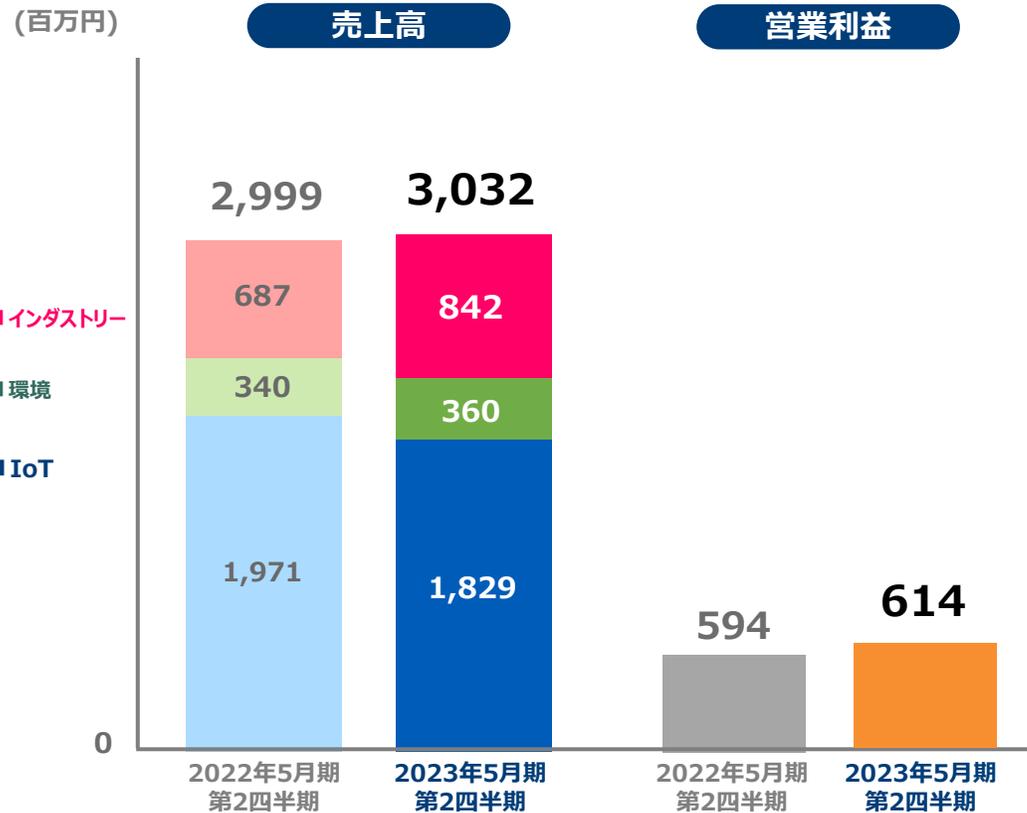
- ① 業績サマリー
- ② セグメント別 Topics
- ③ 既存事業における今後の動向
- ④ 新規事業創出に向けた今後の施策

-Appendix-

# 業績サマリー

## POINT

- 主に、IoT関連事業セグメントの増益及びインダストリー4.0推進事業セグメントの増収増益に伴い、連結業績は前年同期比で増収増益となった。
- **IoT関連事業セグメント**：収益性の高い海外顧客向け光源装置の販売が堅調に推移。
- **環境エネルギー事業セグメント**：装置本体の販売が堅調に推移。
- **インダストリー4.0推進事業セグメント**：精密除振装置及び歯車試験機の販売が堅調に推移。

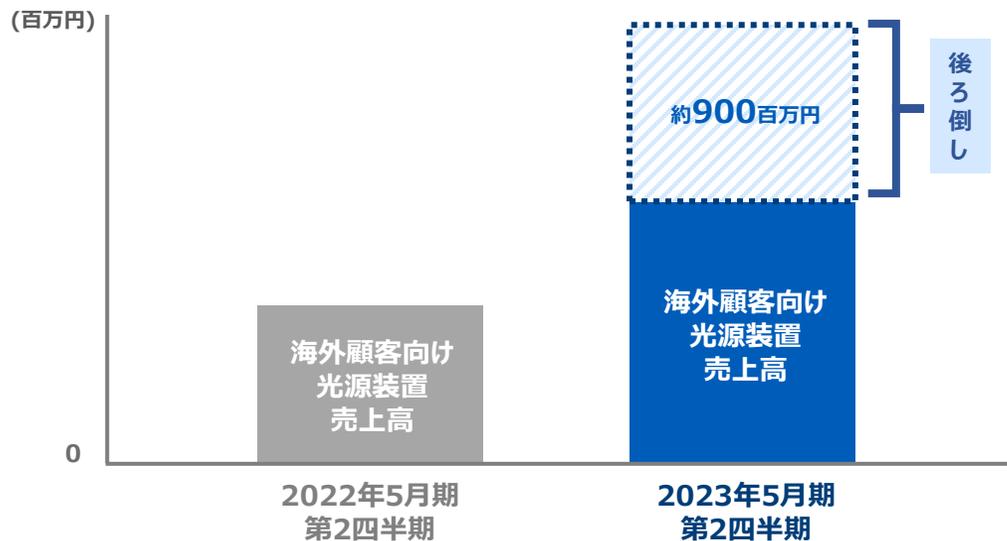


## 主要な経営指標の推移

(百万円)	前第2四半期	当第2四半期	前年同期比増減率 (%)
売上高	2,999	3,032	1.1
営業利益	594	614	3.4
経常利益	611	660	8.0
親会社株主に帰属する四半期純利益	386	429	11.1
1株当たり四半期純利益	35.19円	39.42円	-

# セグメント別 Topics

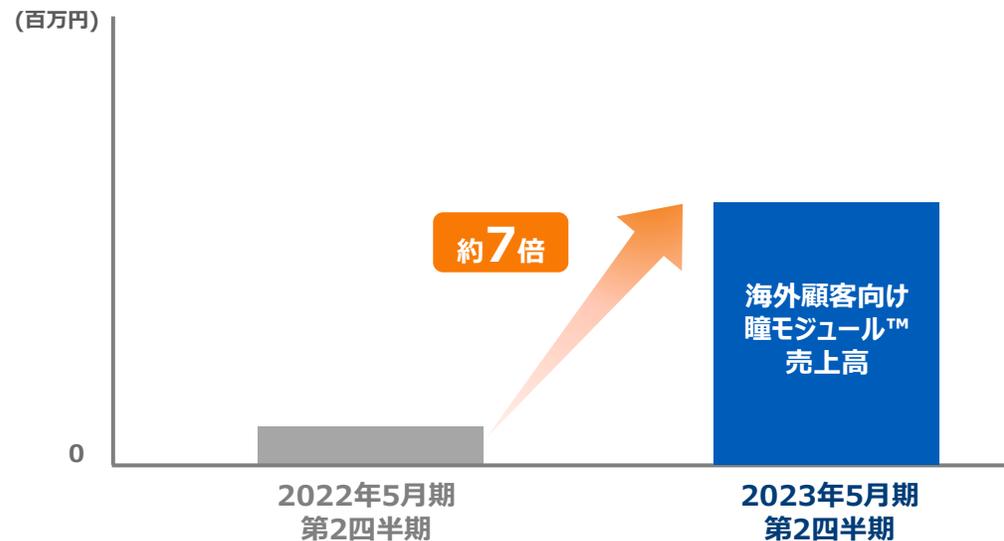
## 海外顧客向け 光源装置 売上計上時期の後ろ倒し



顧客側における  
設備投資タイミングの調整等により

**約900百万円**  
後ろ倒し

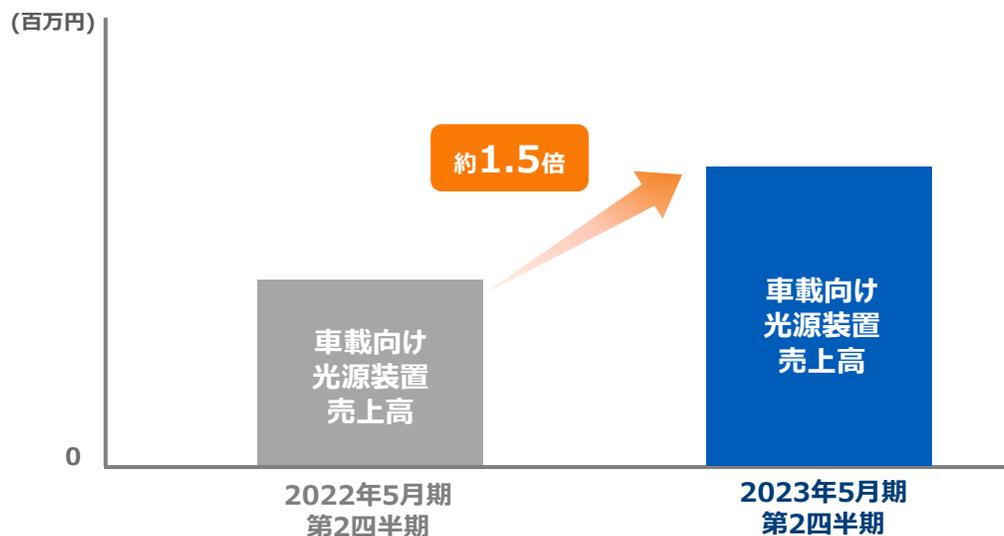
## 海外顧客向け 瞳モジュール™ 売上高増加



顧客への量産導入決定により  
前年同期比で

**+ 約7倍** ↑

## 車載向け光源装置 売上高増加



車載向け光源装置引き合い増加  
売上高は前年同期比で

+ 約 1.5倍 ↑

モバイル用のみならず、車載用等の  
次世代センサに向けた顧客側の投資により  
海外顧客からの引き合いも回復傾向

## 顧客との関係性強化

インターアクションプレスリリース  
「新規事業所の立地決定に関するお知らせ」  
(2022.11.8)

会社名 株式会社インターアクション  
代表者名 代表取締役社長 木地 伸雄  
(コード番号 7725 東証プライム市場)  
問合せ先 経営企画室 I R 担当  
電話番号 045-263-9220

新規事業所の立地決定に関するお知らせ

当社はレーザー加工機関連事業に係る新たな開発拠点として、長崎県長崎市に新規事業所の立地を決定いたしましたのでお知らせいたします。

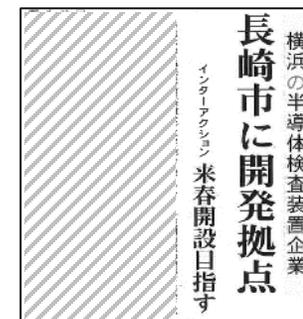
記

1. 目的  
当社は2021年8月2日に「長崎大学との共同研究開始に関するお知らせ」にて開示したとおり、長崎大学と共同で高機能性材料の加工に関する研究開発を行っております。本研究開発では、高機能性材料の一つであるシリコンカーバイド(SiC)の新たな加工方法を開発することで、SiCを材料とする次世代パワー半導体の効率的な生産に寄与することを目的としております。  
今回長崎県内へ事業所を開発することで、上記の次世代パワー半導体に向けた新規加工ソリューション開発を強化してまいります。

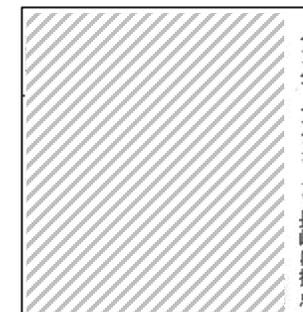
2. 立地事業所の概要  
(1) 事業所名：株式会社インターアクション 長崎開発センター（予定）  
(2) 立地場所：長崎県 長崎市内  
(3) 事業内容：光学系装置・機器  
(半導体製造ライン用加工装置、検査用装置・ユニット、精密測定ユニット)などの開発  
(4) 開設時期：2023年3月（予定）

以上

長崎新聞 (2022.11.9)



日本経済新聞 (2022.11.10)



長崎事業所開設の主目的は  
レーザー加工機事業に関する研究開発の強化

+ α 既存顧客との関係性強化

## アンモニア排ガス処理装置 顧客からの新たなニーズ

アンモニア  
排ガス処理装置



 **AIR GASES TECHNOS**  
株式会社エア・ガズ・テクノス

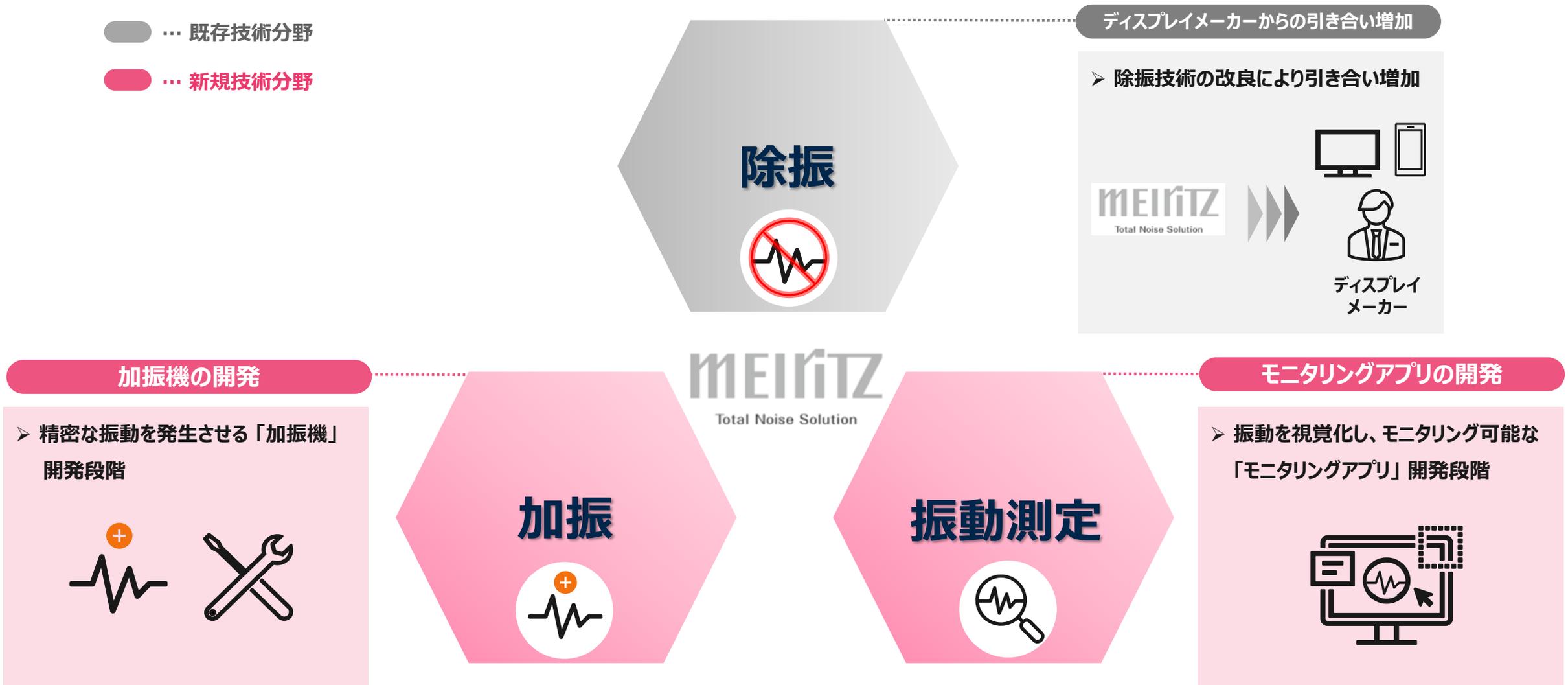
脱炭素に向けた  
次世代エネルギーとして  
**水素・アンモニア**が注目されている

有害な**アンモニア**を処理し  
**水素**を取り出して活用する技術の  
ニーズが高まっている

**アンモニア**  
**排ガス処理装置**  
に対する関心が高まっている

● ... 既存技術分野

● ... 新規技術分野



ディスプレイメーカーからの引き合い増加

➤ 除振技術の改良により引き合い増加

MEIRITZ  
Total Noise Solution



ディスプレイ  
メーカー

## 加振機の開発

➤ 精密な振動を発生させる「加振機」  
開発段階



## 加振



## 振動測定



## モニタリングアプリの開発

➤ 振動を視覚化し、モニタリング可能な  
「モニタリングアプリ」開発段階



## FA画像処理装置（歯車欠陥検査装置）



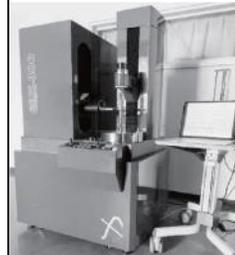
- JIMTOF へ出展。
- 反響大きく、20件以上の引き合いあり。

## 歯車粗さ測定機

日刊工業新聞 (2022.4.7)

歯車の表面粗さ計測 時短

# 東京テクニカル 10分の1



多機能  
ロボ・工作機械  
対応



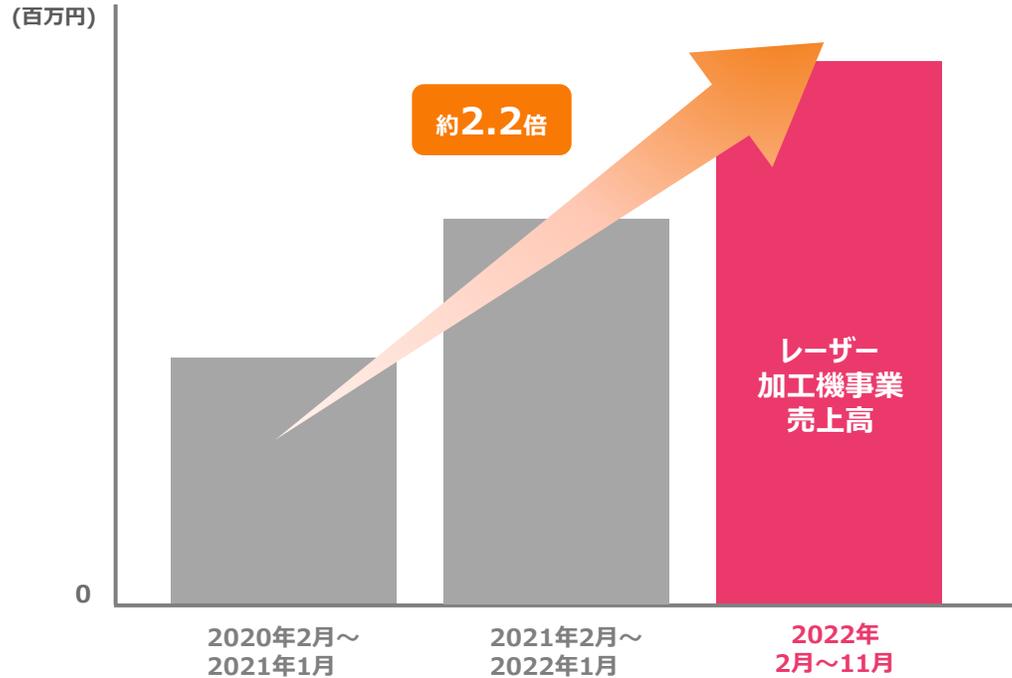
- 従来の歯車試験機と検査項目が若干異なる。
- 大手自動車メーカーが当装置を視察するため  
東京テクニカルの工場に来訪。（18年ぶり）

※歯車粗さ測定機の詳細は下記を参照

・インターアクション プレスリリース (2021.3.1) : [https://ssl4.eir-parts.net/doc/7725/ir\\_material8/174721/00.pdf](https://ssl4.eir-parts.net/doc/7725/ir_material8/174721/00.pdf)

・東京テクニカル HP : <http://www.tti-geartec.jp/jp/product/productDetail.php?id=53>

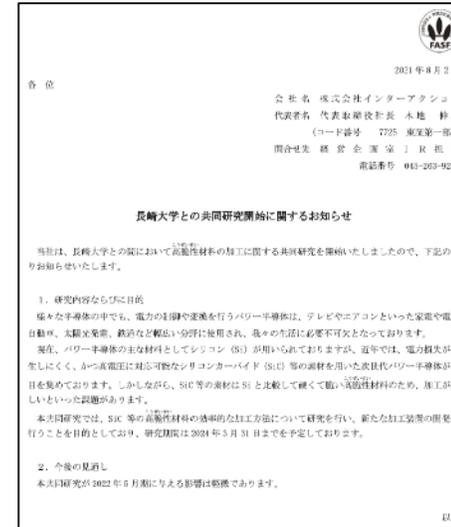
## レーザー加工機事業 売上高



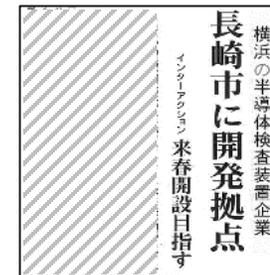
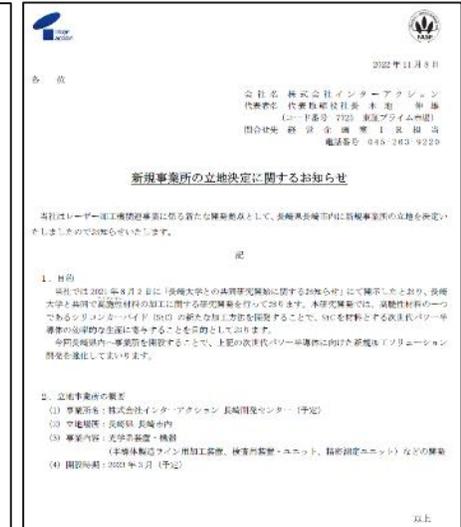
➤ 複数の開発案件が進捗。徐々に売上高増加傾向。(非連結)

## 長崎事業所の開設

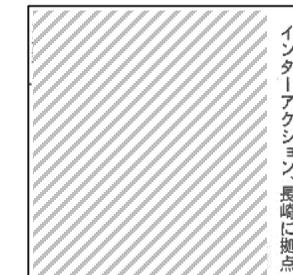
インターアクション プレスリリース  
「長崎大学との共同研究開始に関するお知らせ」  
(2021.8.2)



インターアクション プレスリリース  
「新規事業所の立地決定に関するお知らせ」  
(2022.11.8)



長崎新聞  
2022.11.9



日本経済新聞  
(2022.11.10)

- 長崎大学との連携を更に強化。研究開発の加速を図る。
- 2023年4月から本格的な人員の採用開始予定。

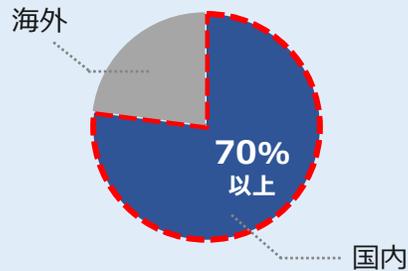
# 既存事業における今後の動向

## 国内

## 海外

### 受注本格化

#### IoT関連事業 受注高



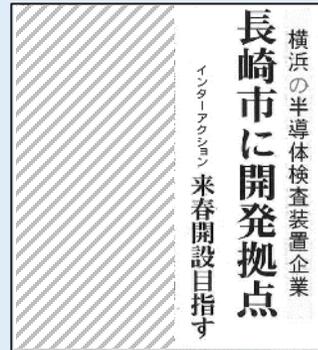
受注高 国内割合

**70%以上**

(2023年5月期2Q時点 累計)

4Q～来期にかけて  
受注規模は  
更に拡大していく想定

### 顧客との開発体制強化



**長崎事業所  
新設**

研究開発の促進  
+  
顧客との関係性強化

### 車載向け光源装置の採用加速



車載向け光源装置  
売上高 前年同期比  
約**1.5倍**増

**車載向け光源装置  
採用加速**

自動運転技術の向上に  
伴い需要増加  
本格採用は来期以降

### 瞳モジュール™の展開



**海外顧客向け  
瞳モジュール™の  
本格導入**

量産品導入後、新たな  
課題の解決を繰り返し行い  
更なる受注獲得を目指す

### 海外顧客 引き合いの回復



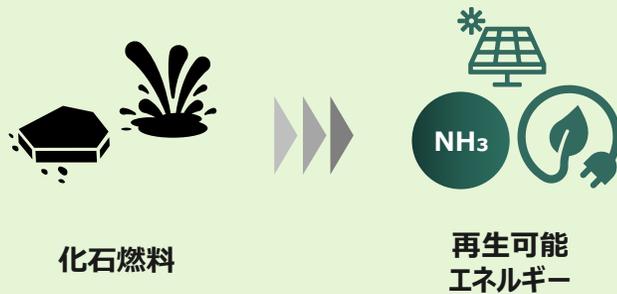
**海外顧客からの  
引き合い復調**

後ろ倒し分  
+  
最終アプリケーションの  
需給の回復見込み

イメージセンサ市場の中長期的な成長見込み

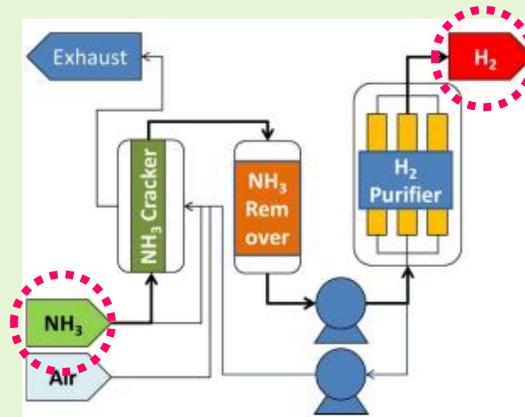
## アンモニア排ガス処理装置

### 化石燃料からの脱却



カーボンニュートラルの動きに伴い  
CO<sub>2</sub> を発生させる化石燃料から  
CO<sub>2</sub> を発生させない  
再生可能エネルギーへ移行

### アンモニア処理技術の応用



再生可能エネルギーとして  
水素・アンモニアの需要が増加する想定  
特にアンモニアから水素を取り出し  
エネルギーとして活用する  
システムが注目されている

### 水素市場参入



アンモニアは有害物質であるため  
アンモニア排ガス処理技術を応用して  
水素を取り出すシステムの提供を目指す

アンモニア排ガス処理装置のラインナップ強化



## 精密除振装置

新規製品分野の開発促進



加振装置



モニタリングアプリ

既存の除振技術を応用し  
加振装置とモニタリングアプリの  
開発を促進 製品化を目指す



振動ソリューションカンパニーへの変貌



## 歯車試験機

FA画像処理装置 販売促進



FA画像処理装置  
(歯車欠陥検査装置)

FA画像処理装置の  
営業活動を本格化



新たな柱となる新規事業



## レーザー加工機

SiC加工装置 開発促進



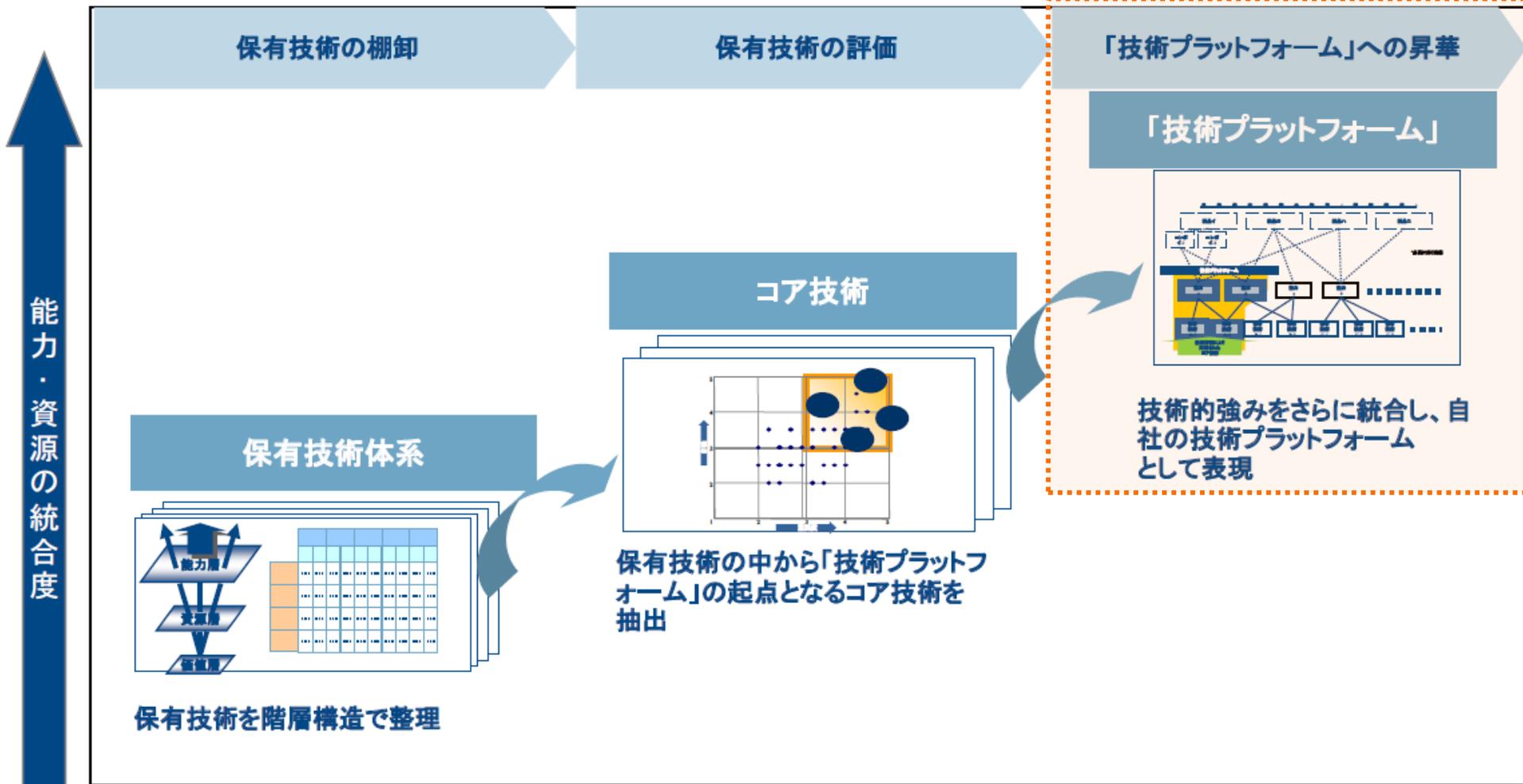
引き続き研究開発を促進し  
SiCダイシング装置の  
製品化を目指す



2024年までに装置完成を目指す

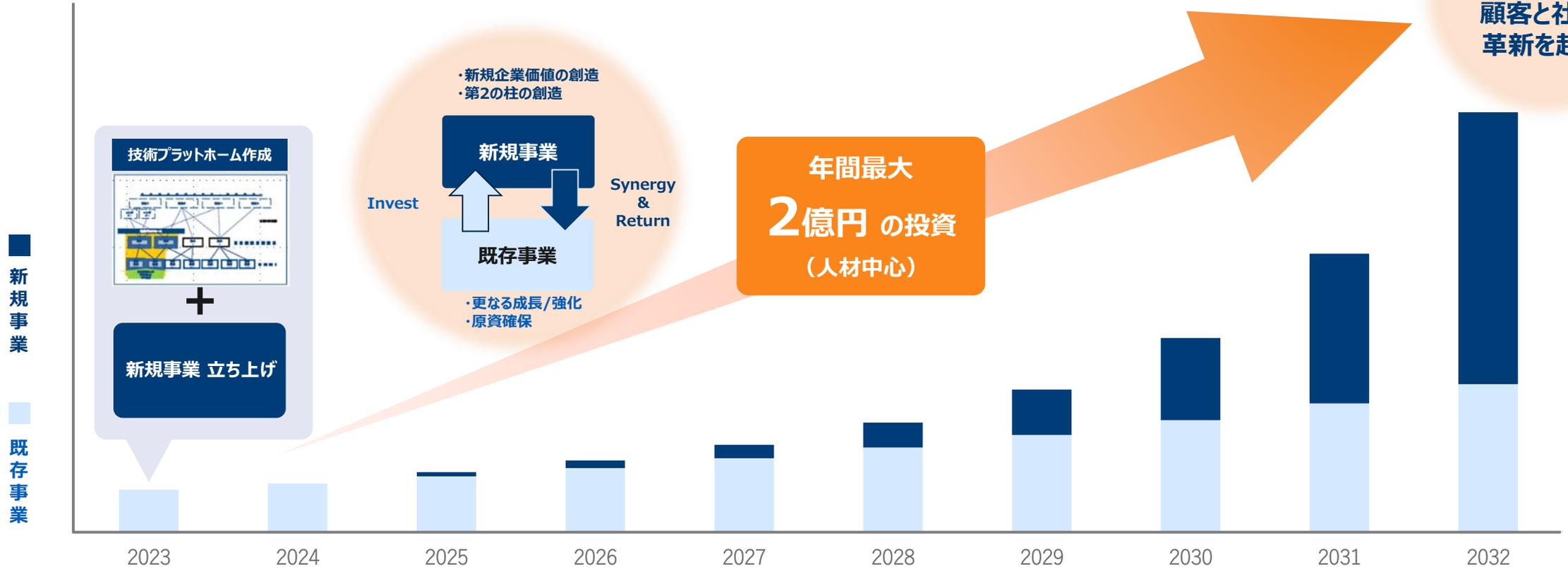
# 新規事業創出に向けた今後の施策

保有技術の棚卸と評価を通じて絞り込まれたコア技術をベースに、「統合」「解釈し直した」ものを「**技術プラットフォーム**」として導出。



更なる新規事業の立ち上げ によって  
 第2の柱となる事業の創出 を図り  
 新しい企業価値の創造 を目指す。

(売上高)



光学視点の  
 モノづくりで  
 顧客と社会に  
 革新を起こす

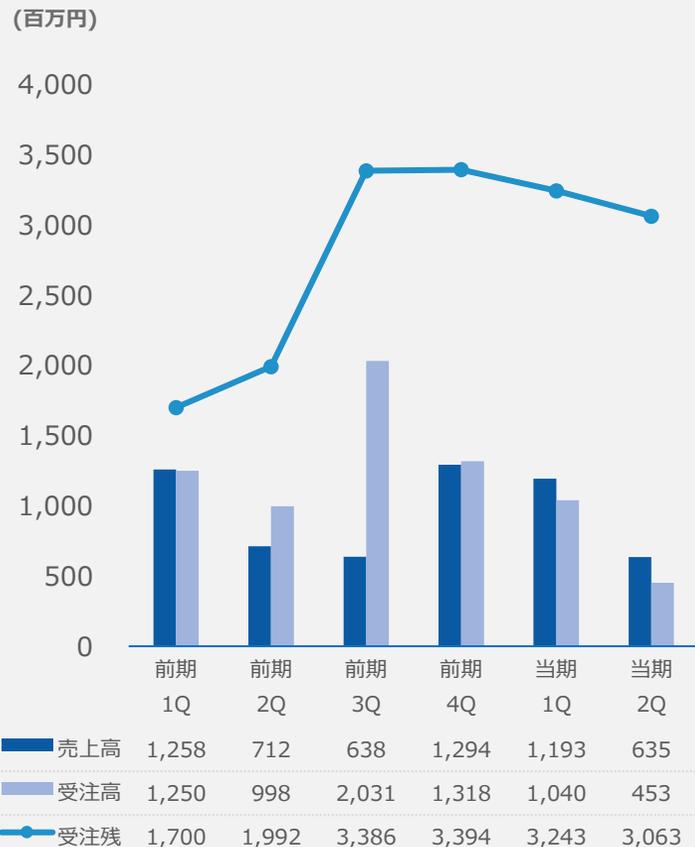
# Appendix ①

## セグメント別 サマリー

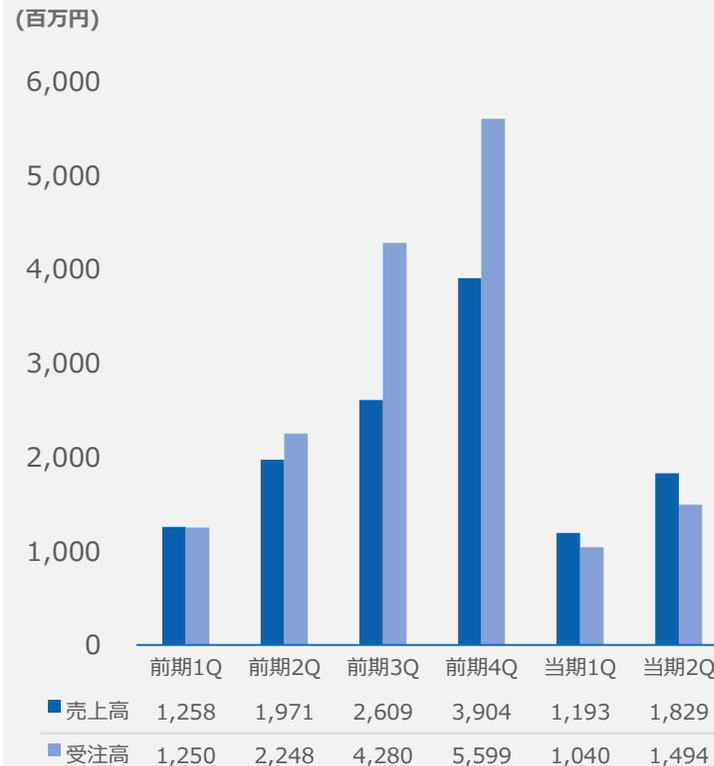
## POINT

- 国内顧客向け製品の販売が低調に推移したものの、海外顧客向け光源装置の販売が前年同期を上回ったため、セグメント全体としては前年同期比で減収増益となった。
- 国内外の顧客共に、車載用等の次世代センサに向けた需要が増加傾向。それに伴い、次世代センサ向けの光源装置等の販売数量も今後増加していく想定。
- 新規顧客向け瞳モジュール™の販売開始。今後、販売数量は徐々に増加していく想定。

### 売上高・受注高・受注残高 推移 (四半期毎)



### 売上高・受注高 推移 (累計)



### 外部環境の主な変化

#### (1) 市場環境

- (+) 車載用等、センシング分野の需要増加傾向。引き続きイメージセンサの市場は中長期的に拡大すると推測。



#### (2) 社会情勢

- (-) 社会情勢の不透明感による影響
  - ・スマートフォン等の最終アプリケーションの需要は引き続き停滞傾向。
- (+) 国内半導体産業の活発化
  - ・国内に半導体ファウンドリを誘致。
  - ・先端半導体の国産化に向けて新会社設立。



#### (3) 顧客動向

- (-) 国内顧客向け製品 需要一時停滞
- (±) 海外顧客向け光源装置 設備投資後ろ倒し



### 内部環境の主な変化

#### (1) 研究開発

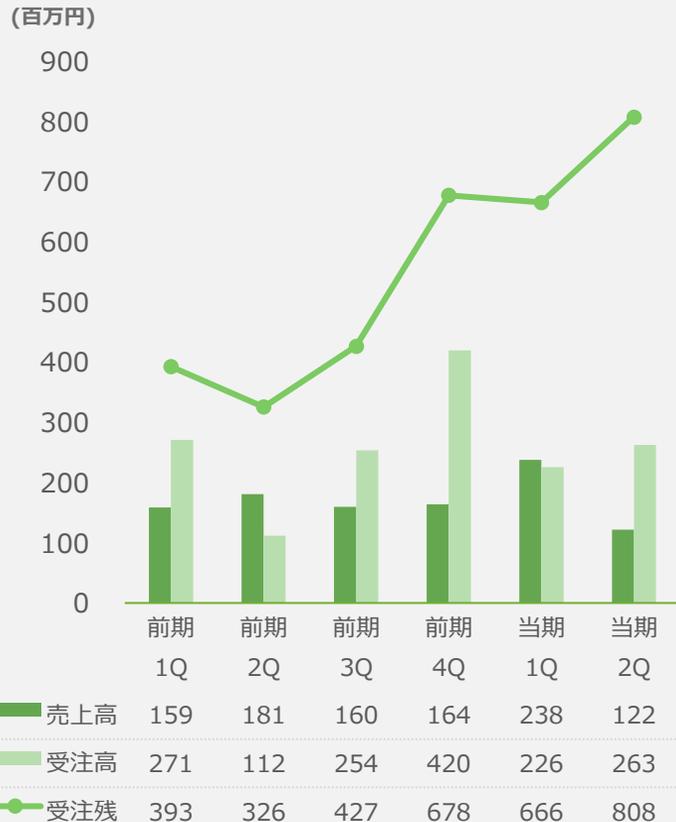
- (+) 顧客との関係性強化
  - ・長崎事業所の開設により研究開発の促進を図る。
- (+) 新規顧客向け瞳モジュール™
  - ・量産品導入後、新たな課題の解決を繰り返し行い、更なる受注獲得を目指す。



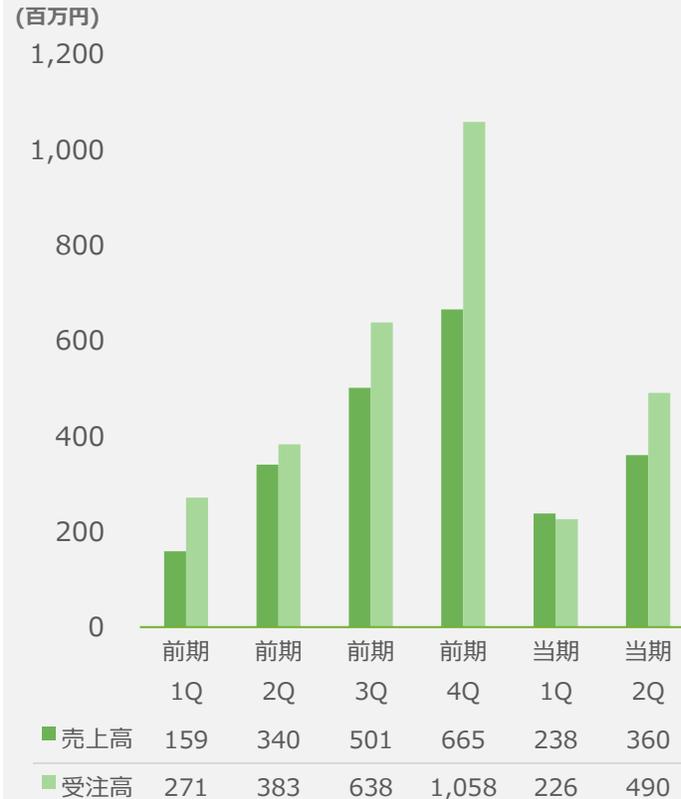
## POINT

- 乾燥脱臭装置及び排ガス処理装置本体の販売が堅調に推移したため、前年同期比で増収となった。
- 一方で、部材不足等の影響により、引き続き収益性の高いメンテナンス案件の売上が低調に推移したため、前年同期比で減益となった。
- 事業成長への取り組みとして、引き続き内部プロセスの見直しを実施。また、AEセンサ（故障予測、保全システム）、脱炭素に向けたアンモニア処理装置等、新製品の開発も進捗中。

### 売上高・受注高・受注残高 推移 (四半期毎)



### 売上高・受注高 推移 (累計)



### 外部環境の主な変化

#### (1) 市場環境

- (+) 各企業の環境問題改善に向けた動きによる需要  
・乾燥脱臭装置や排ガス処理装置等の  
引き合いが増加傾向。



#### (2) 社会情勢

- (-) 世界的な部材不足  
・引き続き本体装置、メンテナンスともに納期が  
後ろ倒し傾向。部品によっては納期が1年以上  
となっている物もあり、調達が遅れている。



#### (3) 顧客動向

- (+) 本体装置の発注増加  
・引き続き、顧客側においてアフターコロナを見据えた  
設備投資が徐々に再開。  
補助金を活用した需要も増加。



### 内部環境の主な変化

#### (1) 新規事業への取り組み

- (+) AEセンサの開発 順調に進捗

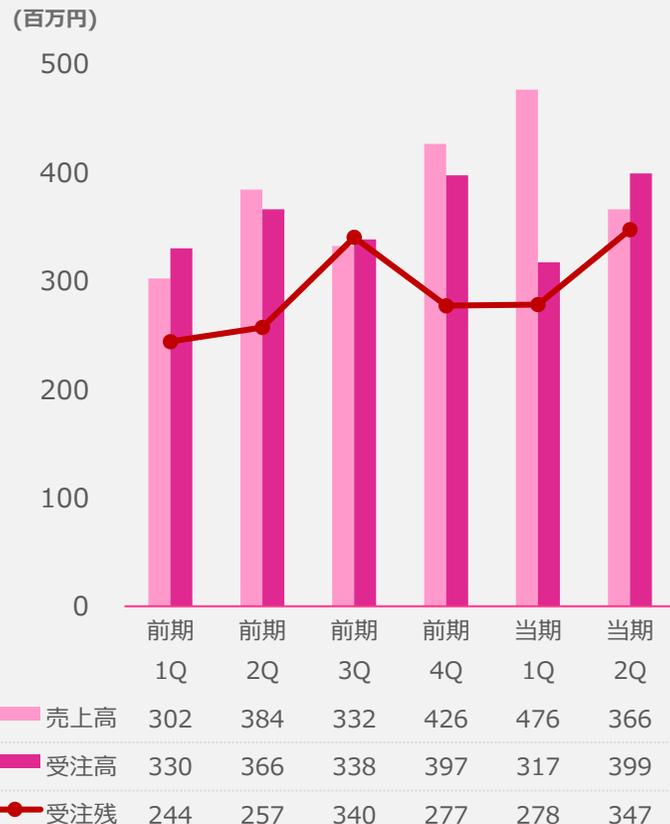
- (+) 脱炭素に向けてアンモニア脱臭装置の  
研究開発を強化



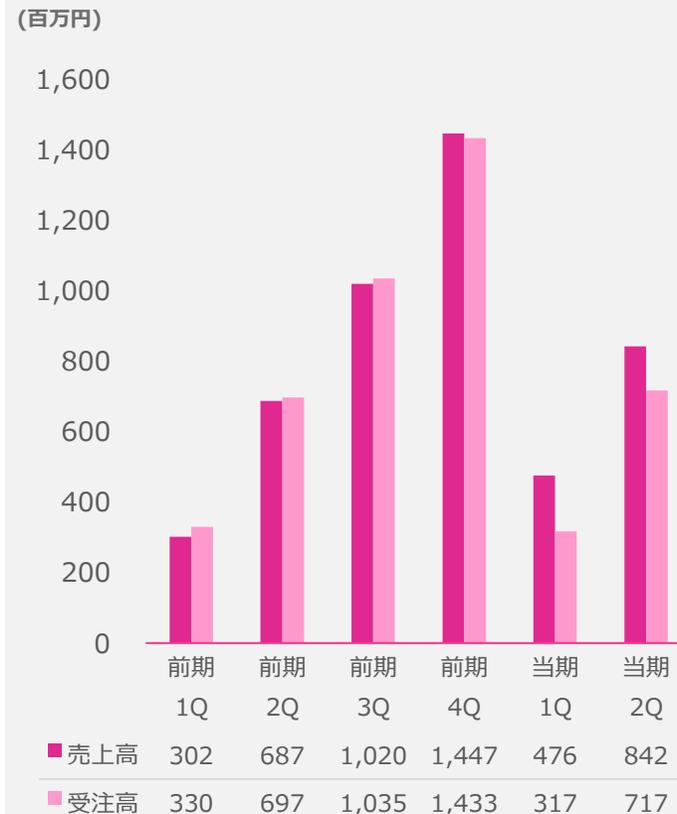
## POINT

- セグメント全体として前年同期比で増収増益となった。
- 精密除振装置：国内顧客及び海外顧客向けの製品共に販売が堅調に推移したため、前年同期比で増収。一方、研究開発費の増加等によって減益となった。
- 歯車試験機：引き続き工作機械業界の市況は好調に推移。それに伴い製品の販売も堅調に推移したため、前年同期比で増収増益となった。

### 売上高・受注高・受注残高 推移 (四半期毎)



### 売上高・受注高 推移 (累計)



### 外部環境の主な変化

#### (1) 市場環境

- (+) 工作機械業界の市況  
 ・工作機械の需要が引き続き高い状態で推移。  
 特に、EV向けやロボット産業向けの需要増加傾向。  
 歯車製造業界へも波及。



#### (2) 社会情勢

- (-) サプライチェーンの混乱  
 ・部材の入荷遅延や価格が上昇している状況は未改善。



#### (3) 顧客動向

- (+) 海外顧客向け 歯車試験機  
 ・中国顧客を中心に歯車試験機の需要増。  
 EV化に向けた新しいニーズが発生。



### 内部環境の主な変化

#### (1) 新規製品の開発

- (+) JIMTOF展示会にてFA画像処理装置、  
 歯車粗さ測定機等を出展。引き合い大幅増。
- (+) 振動をモニタリングするアプリや、振動を生成し、  
 実環境を再現する「加振機」の開発を引き続き推進。  
 複数引き合いあり。



# Appendix ②

## 会社概要

商号	株式会社インターアクション INTER ACTION Corporation
設立	1992年6月25日
代表者	代表取締役社長 木地 伸雄
資本金	1,760百万円
従業員	126名（2022年5月末時点 グループ全体）
本社所在地	神奈川県横浜市金沢区福浦1-1 横浜金沢ハイテクセンター14階 TEL:045-788-8373 FAX:045-788-8371
事業所	横浜市中区・熊本県合志市

上場市場	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	7725
事業年度	自 6月1日 至 5月31日
URL	<a href="https://www.inter-action.co.jp">https://www.inter-action.co.jp</a>
グループ会社	株式会社エア・ガシズ・テクノス 明立精機株式会社 株式会社東京テクニカル 西安朝陽光伏科技有限公司 陝西明立精密设备有限公司 MEIRITZ KOREA CO.,LTD Taiwan Tokyo Technical Instruments Corp. TOKYO TECHNICAL INSTRUMENTS (SHANGHAI) CO.,LTD 株式会社ラステック

重要指標

Equity Spread  
ROE

配当方針

総還元性向30%

M&A方針

成長分野・今後成長を見込める分野であること  
培ってきた技術や事業のノウハウが、事業展開に活用できる分野であること  
5年間の想定キャッシュ・フローをWACCで割り引いたNPVがプラスになること

## メール配信サービス

---

インターアクショングループに関する様々な情報をメールでお届けします

当社HP「メール配信サービス」画面

[https://www.inter-action.co.jp/ir/ir\\_mail/](https://www.inter-action.co.jp/ir/ir_mail/)

ご登録いただきました情報は、IRメール配信サービスのみを使用します。

個人情報の取り扱いにつきましては、当社ホームページに記載しております

「個人情報保護方針」をご参照下さい

<https://www.inter-action.co.jp/privacy/>

## お問い合わせ

---

株式会社インターアクション

経営企画室 経営企画グループ IR担当

神奈川県横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル10階

TEL : 045-263-9220

<https://www.inter-action.co.jp/inquiry/>

HPお問い合わせ画面よりお問い合わせ下さい



## 注意事項

本資料に記載されている情報には、将来の業績等に関する見通しが含まれております。これらの見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づいて当社グループにより判断されたものであり、様々な潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、今後の事業領域を取り巻く経済状況、市場の動向等の影響を受けるものであり、記載された見通しと大きく異なる結果となることをご承知置き下さい。

本資料で提供している情報に関しては、万全を期しておりますが、その情報の正確性及び完全性を保証するものではありません。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、予めご了承ください。

事前の承諾なしに本資料に掲載されている内容の複製・転用等を行うことを禁止します。